

リスク・アセスメントのトレーニング（その1）

ナインイ坊やの屁理屈リスト

みんなで何かをやろうという話になったとき、総論賛成でも、個々の役割分担になると反対とか、あれは出来ない、これは出来ないと並べ立てて動こうとしない方がいらっしゃいます。取り纏めでお困りになっている方もいらっしゃると思いますが、この出来ない理由をリスク・アセスメントに役立てない手はありません。因みにリスク・アセスメントの「アセスメント」は「評価」の意味です。

ネガティブな意見を持っている方の懸念事項を箇条書きに列挙すれば、それがリスク管理項目を検討するために有用な資料となります。

ご自分自身だけで計画を考えている場合には、心配性の自分を前面に出して、障害となりそうな懸念を箇条書きに列挙してみましょう。

<ワークの狙い>

このワークは、どんなことをリスクとして管理していくのかを理解することを狙いとします。

1. テーマを決める

仕事、学業、自己啓発等で計画していることから、リスク・アセスメントのトレーニングのサンプルとするテーマを決めて下さい。

2. 出来ない言い訳を考える

テーマの計画を進める上で障害となりそうなことを思いつく限り挙げましょう。屁理屈と思えること、身勝手な理由と思えることも全て挙げましょう。

(1) 計画のアクション・アイテムのそれぞれを、引き受けたくない担当者の立場で、出来ない言い訳を考える。

(2) 担当者の私的な都合や屁理屈っぽい出来ない理由も挙げましょう。

3. 言い訳は一品一葉でカードに記載します。

4. カードの仕分け

同じ内容、関係性を整理しながらカードを仕分けしましょう。

5. 計画のアクション・アイテム全体を横並びで見て、言い訳の書き落としがないことを確認します。

6. それぞれの言い訳の障害について「発生の可能性」、「重大性」、「対策の有無」、「代替案の有無」を評価します。

7. 以上の結果を、リスク項目（言い訳）と評価の一覧表としてリスク一覧表を作成します。

「発生の可能性」が極めて高いもの、「重大性」が極めて高いリスク項目は「対策」か「代替案」がなければ計画が成り立たないこととなります。

リスク・アセスメントのトレーニング（その2）

一休さんの解決法

リスク・アセスメントの結果、考えたどの方法でもリスクが大きくて、実行するか躊躇うこともあります。そんなときはどうすればよいのでしょうか。

ケースバイケースですが、どのような対処法があるかを考えましょう。いずれにしても考えた結果、悩むわけですから簡単には行きません。一度休んで気持ちを切り替えることで新たな対処法を考え出しましょう。

<ワークの狙い>

リスクを軽減するために何をすれば良いかをケースの条件によって考えられるようになることがこのワークの狙いです。

1. 対処法の例

－対処法1－

リスクのある障害が解消される時を待つ。

例：市場の需要、技術開発、機器価格の下落等

－対処法2－

リスクのある障害事項を機能分解して障害をピンポイント化し、その代替やリスク軽減を改めて検討する。

例：圧力の高速切り替えバルブがない→圧力変動→ポンプ脈動の利用→構成機器及び回路の再設計

－対処法3－

リスクのある障害を解消するヒントが浮かぶのを待つ。

他のことからヒントを得る。

例：長尺プラスチック成型の冷却歪→蒸着膜均一化や金属歪除去のアニール処理→歪是正アニール

－対処法4－

リスク影響を再評価する。リスクは経験がないために不安感とその悪影響を過剰に評価する傾向がある。シミュレーションや実験によってリスク影響をより精度よく評価する。

例：組立時の各部品の寸法許容差を最も都合悪く累積させると設計が成り立たない

↓

各部品寸法の分布測定→ガウス分布として再検討等

2. 想像しよう

対処法1「リスクのある障害が解消される時を待つ。」ではどんなことを待つケースが考えられるでしょう。思いつくケースを書き出しましょう。